

S I B Cとは？



国立劇場おきなわ



七尾西湊合同庁舎

夢のマイホームを購入するとき、同じ規模・グレードの住宅の周辺相場を確認して、自分なりのひとつの指標としませんか。

大画面液晶テレビを買うとき、インターネットサイトで現在の流通価格を調べる、あるいは、家電量販店を数件まわって販売価格の比較をしませんか。

「こつこつと貯めた虎の子の貯金を頭金にマイホームを購入する。」

「国民から集めた税金を使って行政サービスに必要な施設を建設する。」

お金の出所は違っても、要求する性能を満たす建物を、より少ない資金で購入・調達したいという思いは一緒のはずです。

そのためには事前調査として、過去の具体的事例資料の収集・比較検討は欠かせません。

ある自治体で新庁舎建設のプロジェクトあるいは美術館等の建設プロジェクトの話が出た際、ゼロから事例資料の収集を行うには相当の時間と労力を費やします。

プロジェクト発案の話は、そのときの社会情勢や経済情勢により意思決定権者である知事・市長が早急に決断をせまられることもあろうかと思えます。

裏づけのある根拠データが揃っていない。概算精度もそこそこ。その上なによりもスピードが求められている。そんな時、思い出してください。

『「ほしい！」と思ったそのとき、そこにデータがある。』

そのためのツールが、この建築コスト情報システム（S I B C : Searching system for Index of Building Cost）です。

建築コスト情報システムは、公共施設建設事例のデータバンクです。

このシステムは、共同で開発・運営するS I B C会員（都道府県及び政令指定都市合計 66 団体）により提供いただいた建築コスト情報を共用データベースとして整理・蓄積し、S I B C会員にフィードバックすることで、公共建築のコスト管理業務を支援するものです。

（一財）建築コスト管理システム研究所は、そのような公共発注者の視点に立った問題解決のためのソリューションを提供します。

コンセプト・マップ

■現状の課題

- ・ 予算要求資料作成の際に、大変な時間と労力を費やしている。
- ・ 見積もりで提示された金額が妥当なものかどうかを判断するための指標や過去の事例がない。

まずは、

類似施設をもとに作成した概算算出シートの平均的な単価を用いて費用総額を算出してみる。

行政機関のスリム化、公務員の人件費削減がさげられる中、より少ない労力で適正な予算枠を確保したい。

■解決方法

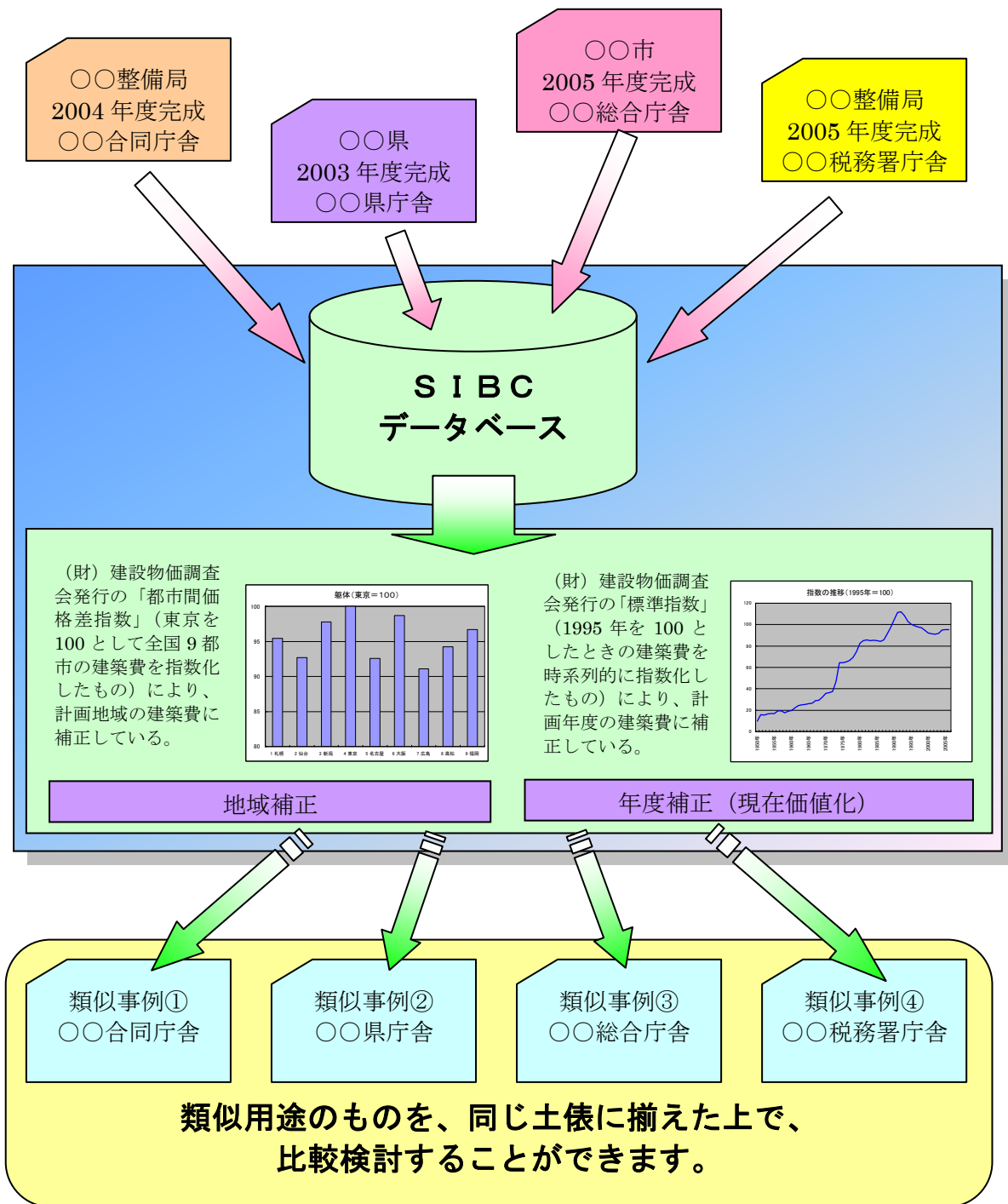
- ・ S I B Cによる過去の事例資料の抽出
- ・ 概算算出シートを用いた概算算出

■要因

- ・ 予算要求の際に類似施設の事例がなく、どのくらいの予算を確保すればよいか見当がつかない。
- ・ 類似施設の事例は多数あるのだが、発注時期の違いにより価格水準が異なるため比較できない。
- ・ 過去の発注情報がデータベース化されていない。
- ・ データベースの更新・メンテナンス要員がいない。

S I B C会員により提供された新築物件に関するコストデータ(予定価格ベース)

S I B Cの概要



S I B C会員により提供いただいた建築コスト情報は、建築年度、建設地、用途等さまざまな施設で構成されています。そのため、新たな施設の計画に当たっては、それらを同じ土俵で見て比較検討ができるよう信頼のおける調査機関の数値を用いた補正が必要になります。

S I B Cは計画年度、建設予定地域を指定することで、自動的に補正されたデータとして出力します。